



BATTLE FUUCKERS

Vol.9

-LALO-

「おっさすがは野生児じゃん？めっちゃ野性味あふれるデカチンポ！
マジタ流柔術でほぐしてあげようか！」

「うっうっうっうっ何してる？なんだ」の手、変な感じだ」

「あれ？もしかして手」キとか射撃とか知らないウブちゃん？」

「こんなデカイ金玉ぶら下げて苦しくならないの？ほれほれ？」

「な、なんだ」の顔じつかゆらけや、ん、んれっらっらっ」

「ほらほら、ささっと抜いちゃえ！」



ドビッ

ビョッ

ビョッ



ハッ!

ハッ!

ハッ!

「それにしては、このデカマラ本当凶悪ねー！」

ブラのオちゃんのかわいいイメージ損ねちゃうわよ」

「おっばい、すっぴー俺、おっばい大好き」

「フフフーじゃあパイズリはどう？カリにパイ肉がフニフニ当たるでしょ？」

「おっばい、やわらかいーおっばい、大好きー！」

「こんなピンピンに勃起して、わたしの自慢のデカパイ突き抜けるなんて

本当に元気なチンポね」





ドビュ

ビュッ!

ビュッ!

「あれ？もう萎えちゃった？そんな甘ちゃんにはアーン！」

「フガ！お尻ーや、やめろ！お尻汚いとーろー！」

「ほらほら、わたしがチンポにしたよっ！」
「スロスロ吐めるのよ」

「だって、オマエ、チンポない……ん？なんだ」の奥に？

変な臭いだけで嗅ぎたくなる……フンフン！」

「イヤーン！そんな必死に嗅がないでよー！」

しかもおチンポ反応してきているじゃない？！」





イシヤアアア♡

「オマエ見てると、なんかイライラする！」

殴りたいとかそんなんじゃないの？、なんか、変な感じた」

「もう、年頃だからっていきなりがっつかないの！」

「紳士はもっと、」
「ん、ゆっへん始めるのよー」

「うっおおおっうーもっとうたくさん、触らせるー！」

「わーわーわー場所、濡ってる場所、いっぱい触らせるー！」

「やあーんーいきなりまんまんだなんてー！」

「うーうーわたくしは興奮してきちゃったー！」





©2011

©2011



フッ!

ビュッ!

ビュッ!

「それじゃ、おしおきタイム！んっーやっばりデカい！」

「……んっー食持たさるっつーの？」

「ななっー俺のチンポ、オマエに食われたっ？」

「はあんーああんーっのチンポ、すっらいわー！」

「油断したらわたしがお仕事まわさるっつかもっ？んっー！」

「俺のチンポ、舐められたり、吸われたりしてっ。」

「お、オマエはネロも口がまるのなっ。」

「んっーそ、そっらっよー！」

「っばりヌいたの「まだはっつちやんネはっおっまっ！」

「私の中でザーメン抜いちやっらなっ。」



ゴゴゴ!

ブルブル!

ゴゴゴ!



ドビュ!

ビュッ!

「あんっ！んんっ！ち、ちょっと！主導権取るのはいいけど
入れる穴……間違えてるわよ！」

「うおおっうー」「うー」「うー」の口、小ぢくしてキツィンと、気持ちさらさらー」
「んんっ！ああんっ！んんんっ！」

「アナルでいきなりするなんて、結構ノリいいじゃないー」

「うおおっ！うおおっ！うおおっ！うおおっ！うおおっ！」

「オマエの穴、上も下も後ろも、全部気持ちいいー」

「な、な！それって嫌めしてるつもり？……ああんっ！」





トク

ビビル

ビズ



「うおんー！うおおおんー！うおっおー！うー！」

「ハアハアー野獣のようなセックス、最高！」

「もっといっぱい、バーンってキてえっ！」

「俺、オマエ好きだーママ以外で女で好きな奴、始めてだ！」

「ジャングルにはオマエみたいにキモチイイ女、いなかった！」

「んんっ！ハアンーああハアンー！」

「わ、わたしもこんな気持ちいい極太チンポ、初めてよおー！」



トビュ♡

ビュ♡

ビュルルルル♡

「うおっうおっ！オマエ、俺の女になれ！」

「ああん！パーンって全力で立ちバックしながら、
そんな言葉囁いちゃ……だめよお！」

「一緒にジャングル行って暮らす。」

俺、ムラムラしたらオマエの中、入れる。どうか？」

「告白の言葉も、本当に野盗ねえ！女にそんな扱いしちやダメだってえ！」

「このバトルも、仕方なくやってるのお！」

「ウンつけ！俺突く度、オマエ、涙がでるほど嬉しい、嬉しいか？」

うおっ！うおっ！うおっ！うおっ！うおっ！

「んんっ！ああんっ！野生のカンでベしちやってるラ！」

「……ヤバイ、ズンズン突かれて、ますますマガってきちゃっうんんっ！……！」





ドビッ!

ビュッ! ビュッ!

「ツハマー！たまらないわ。最高にキマってたじゃない？」

「わたしたち、夫婦は無理でもセックスフレンドっていいわね！」

「トモダチのうっおっうっおっ！それでもいい！」

「またチンポが硬くなったら絞ってほしい！」

「ハハー任せといてよー絞め技は得意だからね！」

「あんたがまた固くなっちゃったら、柔らかくなるまでブンブンお尻叩いてね！」

「ーっまっ！」

「それっていつも活きのいいザーメンたくさん出たの？」

「それはゴリゴリやって避妊しないとマズいかもね！」





















































